

第78回林間学園記念展

到津の森公園林間学園は、この夏第78回目を終了し、約670人の生徒たちが学園を巣立っていきました。

期間中に撮影した子どもたちのいきいきとしたスナップ写真や思い出の品々を、下記のとおり展示します。

子どもたちの活動の軌跡をぜひご覧ください。

- 開催日時 9月16日(土)～9月30日(土)
9:00～17:00 ※火曜休園
- 開催場所 管理センター2階ロビー
- 展示内容 写真、教材の展示等

キーパーズトーク「シマウマ」

日時・期間 9月の土日・祝日 11:30～11:45ごろまで

開催場所 「草原の世界」シマウマ運動場前

飼育スタッフが担当動物のおはなしをするキーパーズトーク。

今回は、「シマウマ」。どんなおはなしが聞けるかな？

シマウマと言えば、白と黒の縞模様ですが…

よく見てください。当園のシマウマ(チャップマンシマウマ)は、胴体やお尻のあたりの縞々の間に「かげシマ」とよばれる少し茶色がかったシマがあるのが特徴です。

さらに、縞模様は、指紋と一緒に、同じものはないそうです。当園のシマウマたちを比べてみてくださいね！

さあ、シマウマの観察をしながら、飼育スタッフの話を聞いてみませんか？

もっと、おもしろいことが聞けるかもしれませんよ。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 9月号 2017年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」17年9月1日発行 通巻175号

到津の森公園 & 動物愛護センター

動物慰霊祭

入園料無料!

9月23日(土・祝) 9:00～18:00

この1年間で当園で亡くなった動物たちの慰霊祭を行います。また、営業時間を1時間延長して午後6時まで開園し、子どもたちから大人まで入園料が無料でお楽しみいただけます。動物愛護センター、北九州市獣医師会などによるイベントも多数開催されます。

※駐車料金、遊具利用、エサやりは通常どおり有料です。



動物慰霊祭

時間： 9:30～10分程度

場所： 「郷土の森林(もり)」 動物慰霊碑前

昨年の慰霊祭以降、この1年間で13種27点(哺乳類5種17点、鳥類8種10点)の動物たちが当園で亡くなりました。

(8月31日現在) 彼らの冥福を祈り、献花します。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森のなかま・キリン

ミモの成長

今年の3月27日に産まれて、はや5ヵ月が過ぎました。出産直後は約1m70cmの大きさでしたが、角が立ち上がったこともあり、角までの高さも2m50cmを超え、順調に大きく成長しています。

葉っぱの食べ方もだんだん上手になり、母親の「マリア」に負けないように頑張っています。

この5ヵ月の間に、運動場に出ることに慣れたり、大雨や、夏の夜間開園、花火など初めての事を沢山経験しました。体だけではなく少しずつ色々なことを経験し、心も成長しています。

ミモは、お兄ちゃんの「望」やお姉ちゃんの「いと」、お母さんの「マリア」、お父さんの「トーマ」と違って雨に濡れても平気なようです。

雨が降り、お母さんの「マリア」は部屋に隠れているときも1頭で通路に出てびしょびしょに濡れています。

体が冷え体調が悪くならないか、こちらの心配はよそに、元気一杯です。

元気がよすぎるので、運動場でもしばしば走りまわりますが、座って落ち着いたり、ハトに興味を持って追いかけたりと、自由にのびのびと過ごしています。

まだまだお転婆娘の「ミモ」ですが、これからも色々なことを経験してのびのび成長していきますので、温かく成長を見守って頂けたらと思います。



飼育展示係 宮崎 和宏

花暦長月

もうとっくに立秋も過ぎ、学校も二学期というのに窓から空を見ると、巨大入道雲が立ち上がっています。

これでも朝早くには涼しげな筋雲だったのに、7時にはもうこんな調子。午後には人相の悪い灰色の雲が低く垂れ込むこともあり、しかも雨を降らせるほどの力はなく、がっかりさせられます。

こんな日には園内の野草たちも、頭を少し垂れておとなし気にしている中、目立たないながら虫たちが次々訪れる元気なつる植物が茂っています。それはヤブガラシ(ぶどう科)とよばれる代表的な雑草です。薄緑の花びら4枚の小さな花が何個も集まって咲きませんが一日で散ってしまいます。

この花の乗っていた台が花台。まるで実のように見えるものです。径は3~5mmの小さな粒の花台の集まりはまるで平皿のような形となり、紅色や橙色に変化しながらいつまでも残り、たっぷり蜜を蓄えます。アオスジアゲハ等のアゲハ蝶類が呼び寄せられるため私にとってはとても嬉しい野草です。でも各種スズメバチ・アシナガバチ・アリなどもやってくる危険な奴でもありますね。

荒地だけでなく庭や畑どこにでも入り込んでしまうと、傍若無人につるを伸ばし、葉は繁り低木など覆いつくして枯らしてしまう凄まじさ。農薬にも根こそぎ除草にも負けません。こんな生態から“ヤブガラシ”となぜけたのもうなずけます。でも昔から人は忌み嫌うだけでなく、食用・薬用として利用してきました。また柔らかく大いに繁る葉は亀の食草としても利用されているそうです。

ヤブガラシは園内でも人の目の届かない藪に繁っています。図鑑などで確かめれば「あっこれは見たことあるある」と思われるでしょう。

雑草呼ばわりされたり、無視されたりしている野草たち、いいところもありますよ！

文：花咲くおばさん